

⑤ 小池昌代、芳川泰久、中村邦生 著

『小説への誘い：日本と世界の名作120』

(大修館書店)

日本に限らず世界各国で、数多く出版されている「小説」。本書は、タイトルにある通り、洋の東西問わずに名作と呼ばれる小説120作を「少女の時間」「少年の日々」など16のテーマごとに、著者3人がそれぞれエッセイ的なコメントと共に紹介した文学ガイドです。

名作と言われると堅苦しく感じるかもしれませんが、長く読み継がれる理由はやはり面白いから。この本を招待状代わりに、古くも新しい一冊と出会ってみませんか。(N. T.)

902.3 ||Shos

⑦ 樋野興夫 著

『がん哲学外来へようこそ』

(新潮社)

がん哲学外来という言葉をご存じでしょうか。そこは個人面談を通してがんにまつわる様々な悩みを解消する為に機能する対話の場です。

本書では、悩みを解決するのではなく、解消することが「がん哲学外来」の特徴と述べており、がんに限らず人生の困難な時期にどう向き合い、どう生き抜くかを気づかせてくれるヒントが書かれています。

最近広まりつつあるがん哲学外来の世界に触れてみませんか。日々の生活を豊かに過ごす方法を見つけるきっかけになるかもしれません。(H. Y.)

491.65 ||Hin



⑥ 柏井壽 著

『京都のツボ：識れば楽しい都の素顔』

(集英社インターナショナル)

国内だけでなく、海外からも多くの方が訪れる京都。しかし、観光を楽しむのと同時に、しきたりや食など、京都には複雑な部分が多いと感じる方もおられるのではないのでしょうか。

本書は、京都について理解を深めるための「ツボ」を紹介しています。生粋の京都人である著者だからこそ、その内容には説得力があり、読み進めていくうちに、本物の京料理を見極める方法や、地名の由来など、名所を観るだけでは分からない京都の素顔が見えてきます。本書で書かれている「ツボ」をおさえて、実際に街を歩けば、きっと京都本来の姿を感じさせられるでしょう。(F. Y.)

291.62 ||Kas

⑧ 江利川春雄 著

『英語と日本軍：知られざる外国語教育史』

(NHK出版)

本書は、明治政府が近代化政策の一環として打ち出した外国語教育政策がどのように展開し、現代に至るまでどのように変遷してきたかを検証して、現在の日本における外国語教育の問題点を提示しています。特に、軍の近代化と一体化した外国語教育において、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語などが日本の陸海軍士官養成学校では「敵国語」として学ばれていた実態を調査し、戦後日本の教育にどのような影響を与えているか考察しています。歴史を振り返って、外国語教育を世界平和の方向へ繋げる必要性を再確認させてくれるお勧めの本です。(F. O.)

390.7 ||Eri